

平成30年度 活動まとめ

ア 4月18日 地域行事である板屋神社春の例大祭



直会は貴重な情報交換の場となった。

イ 5月12日「まなぶ会」会員の池本敏和金沢大学講師が公開講座「金沢学」で「金沢城を支えた辰巳用水と、その変遷」と題して講演した。

金大と北國新聞社が連携して取り組む市民公開講座「金沢学」Ⅱ写真Ⅱは12日、金沢市の北國新聞20階ホールで開かれ、金大理工研究域地球社会基盤学系の池本敏和講師が「金沢城を支えた辰巳用水と、その変遷」と題して講演した。池本氏は国史跡・辰巳用水の水を兼六園側から金沢城へ引き込んでいた逆サイホンの原理を解説し、「高度な土木技術であり、復元を目指すとはどうか」と提案した。

「逆サイホン」復元を

池本金大講師、辰巳用水を解説

金沢学

辰巳用水は1632(寛永9)年、加賀藩3代藩主前田利常が板屋兵四郎に命じて造らせたといわれる。金沢城へ水を引き込む際は、高低差で生じる水圧を利用して水を流す逆サイホンの技術が使われていた。

「辰巳用水にまなぶ会」の活動や共同研究の成果を紹介した。取水口が年月を経て金沢城二の丸に近くなり、わずかな距離で水を引き込める技術の向上や、木管から石管に変遷した歴史を説明した池本氏は「歴史都市を生かすためにも、傷みの少ない石管で復元する価値がある」と話した。

池本氏は1799(寛政11)年に発生した寛政の地震後の絵図から辰巳用水が地震を機に変わったと指摘し、「文書だけで分らないことが、絵図を見ることで経路や距離など詳しく

平成30年5月13日北國新聞朝刊

ウ 9月2~4日秋田県の岩堰用水現地・測量調査（地元関係者の協力を得ながら）



辰巳用水からみた岩堰用水の隧道技術
—梅津政景トンネルの調査報告—



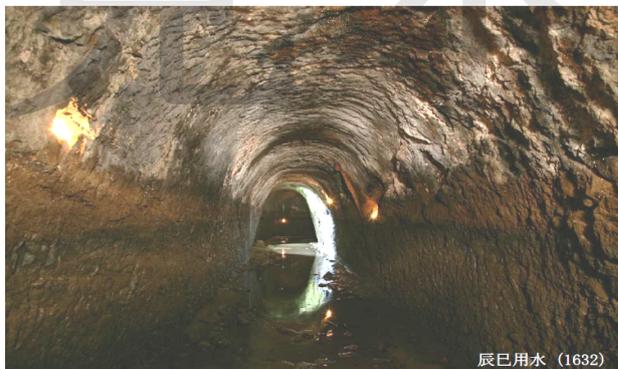
トンネル内を測量



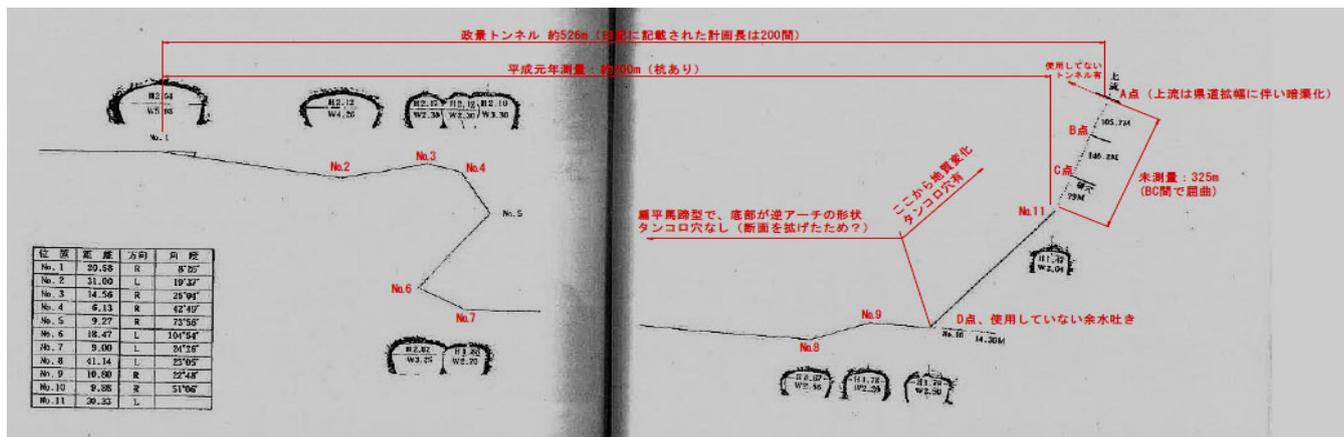
岩堰用水 (1617)



2018/9/3



辰巳用水 (1632)



測量成果の一部

エ 10月21日辰巳用水探訪会



10月21日「まなぶ会」会員が現地案内・説明

オ 10月21日崎浦公民館で講演



会場は満席で熱気を帯びた講演会になった。



平成30年10月22日北國新聞朝刊



逆サイフォンを模型で説明

カ 10月23日 恒例となった犀川小学校4年生対象の出前講座（真剣に聞き入る子供たち）



熱心に耳を傾ける犀川小学校4年生



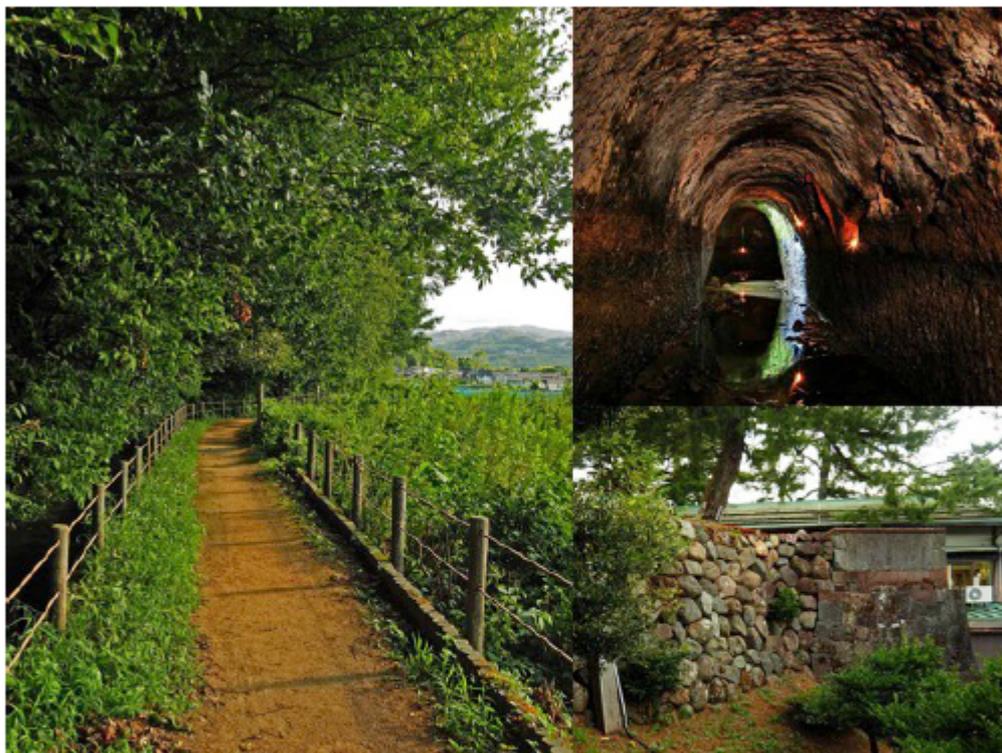
辰巳用水の専門的なことも勉強

キ 11月18日 「NPO辰巳用水にまなぶ会」は活動の一環として、辰巳用水関連施設群を平成30年度の土木学会選奨土木遺産に認定申請を行った。その結果、9月に認定が確定し、関係者一同が喜びを分かち合った。

関連施設群として、東岩取水口、隧道部、横穴、三段石垣、開水路、暗渠、兼六園専用水路、用水管理道、伏越施設の遺構の九つの施設が土木遺産として認定された。

辰巳用水関連施設群

たつみようすいかんれんしせつぐん



辰巳用水関連施設群は、小立野台地系を巧みに利用した隧道と開渠・暗渠によって金沢城内外を潤す水路と、横穴・管理道・伏越・専用水路などの関連施設群です。

所在地: 石川県金沢市

竣工年: 1632(寛永9)年以降

平成30年度土木学会選奨土木遺産



平成30年9月29日北國新聞朝刊



認定書と3枚の銘板

11月18日に記念講演及び祝賀会



山出元金沢市長が「辰巳用水への想い」と題し基調講演



玉井「まなぶ会」理事長が土木遺産となった辰巳用水関連施設群を紹介



谷本石川県知事が祝辞



山野金沢市長が祝辞



会場風景

ク 12月23日のミニ講演会「辰巳用水逆サイフォンについて～分かったこと、まだ分からないこと」
 主催：NPO 法人辰巳用水にまなぶ会



定員を大幅に超える100名が熱心に聴講



逆サイフォンを模型実験でわかりやすく解説



ケ カレンダーの作成

2019年 6月							元年	JUNE
日	月	火	水	木	金	土		
26	27	28	29	30	31	1		先勝
2	3	4	5	6	7	8		仙城
9	10	11	12	13	14	15		大安
16	17	18	19	20	21	22		赤口
23	24	25	26	27	28	29		先勝
30								友引

辰巳用水にまなぶ会

サ 3月31日「まなぶ会」会員が用水の江浚いと清掃活動に参加
(全延長約10kmのうち、「まなぶ会」は約2kmを担当した。)



高齢者が多い中、金沢大学の学生さんの若い力は非常に大きな戦力となった。